

2026年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2026年8月7日

上場会社名 日本エコシステム株式会社

上場取引所

東・名・札・福

コード番号 9249

URL <https://www.jp-eco.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松島 穰

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部担当 (氏名) 稲生篤彦 (TEL) 0586 - 64 - 9249

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年9月期第3四半期の連結業績(2025年10月1日～2026年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年9月期第3四半期	10,797	31.3	1,068	240.8	1,083	216.4	754	82.7
2025年9月期第3四半期	8,221	25.9	313	△36.2	342	△34.0	413	36.4

(注) 包括利益 2026年9月期第3四半期 772百万円(79.2%) 2025年9月期第3四半期 431百万円(37.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年9月期第3四半期	86.65	85.23
2025年9月期第3四半期	47.53	46.91

当社は、2025年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年9月期第3四半期	16,217	6,272	38.1
2025年9月期	13,921	5,676	40.1

(参考) 自己資本 2026年9月期第3四半期 6,181百万円 2025年9月期 5,579百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年9月期	—	26.00	—	9.00	—
2026年9月期	—	9.00	—		
2026年9月期(予想)				9.00	18.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 当社は、2025年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。2025年9月期第2四半期末の配当金については当該株式分割前の実際の配当金の金額を記載しております。2025年9月期の1株当たり年間配当合計は、株式分割の実施により、第2四半期末配当金と期末配当金との単純合算ができないため記載しておりません。

3. 2026年9月期の連結業績予想(2025年10月1日～2026年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,200	26.1	1,000	128.7	1,000	113.5	575	90.4	65.99

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有

株式会社カムラ技建
新規 3社(社名) 大鐘測量設計株式会社、除外 一社(社名) —
及び同社子会社1社

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(連結範囲の重要な変更に関する注記)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更に関する注記)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2026年9月期3Q	8,713,200株	2025年9月期	8,713,200株
2026年9月期3Q	363株	2025年9月期	363株
2026年9月期3Q	8,712,837株	2025年9月期3Q	8,695,271株

(注) 当社は、2025年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(連結範囲の重要な変更に関する注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	8
(セグメント情報等)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における連結業績は以下のとおりであります。

当第3四半期連結累計期間における国内外の経済環境は、景気の緩やかな持ち直しが見られた一方で、各国の金融政策の動向、インフレ圧力の継続、為替相場の変動、ウクライナ情勢の長期化や中東地域における地政学的緊張の高まり、中国経済の減速懸念などにより、先行き不透明な状況で推移いたしました。これらを背景とした資源・エネルギー価格の変動や物流コストの上昇は、企業の収益環境に広範な影響を及ぼしました。国内においては、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の回復が景気を下支えたものの、物価上昇の継続、人手不足の深刻化等により、消費・投資行動には慎重さが残る状況となりました。

このような状況のもと、当社グループは「交通インフラ事業」にて収益基盤を構築、事業の裾野を拡大し、「ファシリティ事業」で公営競技及び空調給排水衛生設備の設計・施工・保守を中心としたファシリティの事業規模拡大を図り、これらの技術、収益を基盤にして「環境事業」を推進するべく取り組んでまいりました。また、本社機能として一部利用している賃貸ビルであるJES一宮ビル等の不動産賃貸事業を中心とした「アセットマネジメント事業」にも取り組んでおります。

また、当社グループ成長戦略としてM&A・人材強化等の成長投資及び株主還元施策の実施を積極的に行った結果、販売費及び一般管理費が増加いたしました。なお、当第3四半期連結累計期間のM&A実績は、株式取得により2025年10月に株式会社カムラ技建、2026年4月に大鐘測量設計株式会社及び同社の子会社である有限会社アペオをグループ化いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高10,797百万円(前年同期比31.3%増)、営業利益1,068百万円(前年同期比240.8%増)、経常利益1,083百万円(前年同期比216.4%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益754百万円(前年同期比82.7%増)となりました。

セグメント別の状況は、以下の通りであります。

なお、当社グループは、当第3四半期連結累計期間より、報告セグメント内の事業構成を見直ししており、前第3四半期連結累計期間との比較・分析は、変更後の区分に基づいて記載しております。

<ファシリティ事業>

ファシリティ事業におきましては、大規模展示会、テレビスタジオなど幅広い場面で利用される防災合板・各種合板の加工製造・販売に関する事業、全熱交換機、空調給排水衛生設備の設計・施工・保守メンテナンスに関する事業、公営競技場におけるトータリゼータシステムの設計・製造・販売・機器設置・メンテナンスに関わる事業及びAI(人工知能)による競輪予想サービス・警備・清掃等の運営業務に関する事業を行っております。当第3四半期連結累計期間において空調給排水衛生設備の設計・施工・保守メンテナンスの受注工事について順調に推移いたしました。

以上の結果、セグメント売上高(外部売上高)は4,398百万円(前年同期比12.8%増)、セグメント利益は530百万円(前年同期比24.0%増)となりました。

<環境事業>

環境事業におきましては、排水浄化処理及び水循環に関する事業並びに再生可能エネルギー発電設備の設計・施工・保守等に関する事業並びに自社設備による売電に関わる事業を展開しております。当第3四半期連結累計期間において排水浄化処理及び水循環に関する事業並びに再生可能エネルギー発電設備の受注工事について共に順調に推移いたしました。

以上の結果、セグメント売上高(外部売上高)は1,344百万円(前年同期比12.3%増)、セグメント利益は274百万円(前年同期比19.8%増)となりました。

<交通インフラ事業>

交通インフラ事業におきましては、高速道路を中心とした道路エンジニアリング・道路メンテナンス事業、公共工事を中心とした建設コンサルタント事業、主に大手キャリアの携帯電話無線基地局工事を中心とした電気通信事業を展開しております。当第3四半期連結累計期間において主要顧客である高速道路運営事業者からの電気通信設備・構造物の点検・保守、高速道路の維持管理等の業務が順調に推移しました。

前連結会計年度にグループ化したJes東海通建株式会社及び株式会社三進の通期稼働が業績に寄与いたしました。

以上の結果、セグメント売上高(外部売上高)は4,690百万円(前年同期比64.6%増)、セグメント利益は1,042百万円(前年同期比141.4%増)となりました。

＜アセットマネジメント事業＞

アセットマネジメント事業におきましては、賃貸等不動産及び不動産売買に関わる事業、経営コンサルティングに関わる事業を展開しております。当3四半期連結会計期間において、新賃貸ビルであるJES一宮ビルの順調な稼働が業績に寄与いたしました。

以上の結果、セグメント売上高（外部売上高）は364百万円（前年同期比32.9%増）、セグメント利益は115百万円（前年同期比3,081.8%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末より2,295百万円増加して、16,217百万円となりました。

流動資産残高は、前連結会計年度末に比べて1,177百万円増加し、5,396百万円となりました。主な要因は、現金及び預金が968百万円、電子記録債権が198百万円、棚卸資産が137百万円増加した一方、受取手形、売掛金及び契約資産が223百万円減少したこと等によるものであります。

固定資産の残高は、前連結会計年度末に比べて1,117百万円増加し、10,821百万円となりました。主な要因は、建物及び構築物が126百万円、機械装置及び運搬具が317百万円、土地が534百万円増加しましたが、減価償却累計額が447百万円増加したこと等により有形固定資産が536百万円増加、投資その他の資産が612百万円増加したこと等によるものであります。

流動負債の残高は、前連結会計年度末に比べて1,760百万円増加し、4,404百万円となりました。主な要因は、短期借入金が1,698百万円、賞与引当金が81百万円、その他流動負債が181百万円増加した一方で、支払手形及び買掛金が149百万円減少したこと等によるものであります。

固定負債の残高は、前連結会計年度末に比べて60百万円減少し、5,540百万円となりました。主な要因は長期借入金128百万円増加したこと等によるものであります。

純資産の残高は、前連結会計年度末に比べて596百万円増加し、6,272百万円となりました。主な要因は、利益剰余金が591百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は、前連結会計年度末より1.9ポイント下降し、38.1%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

本資料に記載されている業績見通し等の将来予測に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	596,698	1,565,110
電子記録債権	53,689	251,979
受取手形、売掛金及び契約資産	1,870,429	1,646,439
有価証券	—	11,234
棚卸資産	1,050,460	1,188,192
その他	647,120	733,319
流動資産合計	4,218,398	5,396,276
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,587,428	6,714,096
機械装置及び運搬具	2,317,235	2,634,712
工具、器具及び備品	920,009	974,080
土地	2,646,793	3,180,849
その他	91,909	42,908
減価償却累計額	△4,079,863	△4,526,989
有形固定資産合計	8,483,513	9,019,658
無形固定資産	358,797	328,374
投資その他の資産	860,974	1,473,219
固定資産合計	9,703,285	10,821,252
資産合計	13,921,683	16,217,528

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	573,149	423,673
電子記録債務	40,279	17,732
短期借入金	300,000	1,998,784
1年内償還予定の社債	58,000	29,500
1年内返済予定の長期借入金	502,155	513,810
賞与引当金	74,925	156,507
未払法人税等	289,508	276,750
その他	806,648	988,144
流動負債合計	2,644,665	4,404,903
固定負債		
長期借入金	4,869,251	4,740,799
退職給付に係る負債	89,463	111,192
資産除去債務	99,289	99,602
その他	542,483	588,468
固定負債合計	5,600,487	5,540,061
負債合計	8,245,153	9,944,965
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,005,097	1,005,097
資本剰余金	916,208	923,157
利益剰余金	3,629,046	4,220,740
自己株式	△530	△530
株主資本合計	5,549,822	6,148,465
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	29,240	32,994
その他の包括利益累計額合計	29,240	32,994
非支配株主持分	97,468	91,104
純資産合計	5,676,530	6,272,563
負債純資産合計	13,921,683	16,217,528

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)
売上高	8,221,555	10,797,743
売上原価	6,015,738	7,621,229
売上総利益	2,205,817	3,176,514
販売費及び一般管理費	1,892,221	2,107,725
営業利益	313,595	1,068,789
営業外収益		
固定資産売却益	11,183	308
受取保険金	2,625	13,680
補助金収入	9,786	9,730
保険解約返戻金	11,653	73
その他	17,932	39,140
営業外収益合計	53,181	62,933
営業外費用		
支払利息	22,398	42,350
その他	2,009	6,062
営業外費用合計	24,407	48,412
経常利益	342,369	1,083,310
特別利益		
固定資産売却益	209,081	22,805
投資有価証券売却益	2,386	18,174
負ののれん発生益	155,108	76,586
特別利益合計	366,576	117,566
特別損失		
固定資産除却損	1,372	—
投資有価証券売却損	2,375	58
特別損失合計	3,747	58
税金等調整前四半期純利益	705,199	1,200,817
法人税等	280,248	432,220
四半期純利益	424,950	768,596
非支配株主に帰属する四半期純利益	11,696	13,636
親会社株主に帰属する四半期純利益	413,253	754,960

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)
四半期純利益	424,950	768,596
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,133	3,735
その他の包括利益合計	6,133	3,735
四半期包括利益	431,084	772,332
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	419,387	761,208
非支配株主に係る四半期包括利益	11,696	13,636

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結範囲の重要な変更に関する注記)

当第3四半期連結会計期間において、大鐘測量設計株式会社の全株式を取得したため、同社及び同社の子会社である有限会社アベオを連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)
税金費用の計算	税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ファシリティ事業	環境事業	交通インフラ事業	アセットマネジメント事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	3,900,725	1,196,982	2,849,769	274,078	8,221,555	—	8,221,555
セグメント間の内部売上高 又は振替高	25,806	—	15,358	13,005	54,170	△54,170	—
計	3,926,531	1,196,982	2,865,128	287,083	8,275,726	△54,170	8,221,555
セグメント利益	427,504	229,149	431,609	3,643	1,091,908	△778,312	313,595

(注) 1. セグメント利益の調整額△778,312千円にはセグメント間取引消去等△6,543千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△771,769千円が含まれております。なお、全社費用の主な内容については、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「交通インフラ事業」セグメントにおいて、第3四半期連結会計期間にJes東海通建株式会社の株式を取得し、連結の範囲に含めたことに伴いのれんが59,550千円発生し増加しております。

なお、当該のれんの金額は、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定による当初配分額の重要な見直しが反映されております。

(重要な負ののれんの発生益)

「ファシリティ事業」セグメントにおいて、第1四半期連結会計期間にベニクス株式会社の株式を取得し、連結の範囲に含めたことに伴い、149,292千円の負ののれん発生益を計上しており、また、「交通インフラ事業」セグメントにおいて、当第3四半期連結会計期間に株式会社三進の株式を取得し、連結の範囲に含めたことに伴い、5,815千円の負ののれん発生益を特別利益に計上しております。

なお、負ののれん発生益は特別利益のため、セグメント利益には含まれておりません。

当第3四半期連結累計期間（自 2025年10月1日 至 2026年6月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ファシリテ イ事業	環境事業	交通インフ ラ事業	アセットマ ネジメント 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	4,398,328	1,344,724	4,690,345	364,345	10,797,743	—	10,797,743
セグメント間の内部売上高 又は振替高	13,984	620	44,711	32,354	91,670	△91,670	—
計	4,412,313	1,345,344	4,735,056	396,699	10,889,413	△91,670	10,797,743
セグメント利益	530,079	274,576	1,042,060	115,938	1,962,654	△893,865	1,068,789

(注) 1. セグメント利益の調整額△893,865千円にはセグメント間取引消去等△598千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△893,266千円が含まれております。なお、全社費用の主な内容については、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

当第3四半期連結会計期間において経営管理区分を見直し、従来「交通インフラ事業」に含まれていた事業セグメントであるLED事業について「環境事業」に含めて表示しております。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

交通インフラ事業において、株式会社カムラ技建を株式取得により連結子会社化したこと、及び大鐘測量設計株式会社を株式取得により、同社及び同社の子会社である有限会社アペオを連結子会社化したことに伴い、それぞれ36,729千円、39,856千円の負ののれん発生益を特別利益に計上しております。

なお、負ののれん発生益は特別利益のため、セグメント利益には含まれておりません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	394,108千円	430,366千円
のれんの償却額	24,001 "	25,828 "